



学会に求められる教育事業とは？

井上 雅博*

エレクトロニクス実装は、機械、電気・電子、化学などの境界領域に位置する分野であるので、大学教育で全体をカバーすることは困難である。以前は企業において新人教育によって実装技術者が育成されてきたが、現在では企業に教育を行う余力がなくなっている。そのため、教育や人材育成に関する学会への期待が高まっている。

本会の教育事業では、最新の技術情報を提供する実装セミナーと、初学者を対象とした教育講座の二本立てで活動してきた。以前は実装セミナーのほうが盛況であったが、ここ数年はセミナーの受講者が減少し、むしろ教育講座のほうが教育事業の収益を支えるようになってきた。教育の中には時代の変遷に影響されない不変の事柄もあることは間違いないが、実装技術が急速に進展している昨今の状況を考えれば、内容を組み替えて時代にフィットするように改革していくことも必要であろう。今後は、会員の皆様のニーズにフレキシブルに対応し、新しい教育講座を企画することで教育事業を活性化していきたい。

本会でされている初学者向けのイベントには、平成21年から春季講演大会で始まったチュートリアルなどがあるが、どちらかと言うと実装技術全般に関する入門という印象がある。教育事業委員会では、個別の技術に関する基礎講座で、多くの方が「いまさら聞けない」と思われているような内容を取り上げ、他のイベントと協調して学会を盛り上げていくべきと考える。

実際に、昨年度より演習を含む基礎講座というコンセプトで新教育講座の企画を始めた。第1回目のテーマとして「伝熱解析」を取り上げたが、予想を上回る受講者数となり、会員各位のサーマルマネジメントに対する関心の高さを再認識した。しかし、講座終了後に記入いただいたアンケートでは、好意的な回答も多く見られたが、企画に対する要望や苦情も少なくなかった。企画の内容が、初歩的な解説、エクセルを使用した演習、熱伝導率測定法と盛りだくさんだったのにもかかわらず、全体の設定時間が短すぎたことが原因で、講師の先生と受講者の皆様のお両方にご迷惑をおかけすることになってしまった。「伝熱解析」については、前回の問題点を反省し、「初級編」、「上級編」のような形で内容を再構成し、改めて実施する予定にしている。

今後、取り上げるテーマを増やしていき、学生や若手からベテランの方まで多くの皆様に参加していただける教育講座をぜひとも実現したい。それが、本会の活力を復活させるための一助になると信じている。この新教育講座を教育事業の柱のひとつとして定着させていくためには皆様の協力が不可欠である。忌憚のない意見をお聞かせいただければ幸いである。